



コブシ、ギフチョウ、イワカガミ、カタクリ…まだ春浅く

2019年4月7日 半田ファミリー山の会四月度定例山行
福井県・鍋倉山(516m)～藤倉山(644m)

4月7日、会の4月度の定例山行が行われた。山域は、福井県の鍋倉山と藤倉山。近世、北陸道・北国街道の宿場町として栄えた今庄宿の背面を取り巻いている山をぐるっとひと回りするコースだ。参加者は4パーティー22人。

北陸自動車道今庄ICを下り、今庄宿に向かう途中の日野川の堤の桜が盛りである。

JRの今庄駅からパーティー毎に、宿場町の中を歩いて鍋倉山の登山口に向かう。

日野川と並行するJR北陸線に沿って舗装道路を歩き、左側の祠や石の地蔵が並んだ登山口に入る。すぐに急なつづら折れの道が始まる。足元にはイカリソウ。ジグザグの道が折れる角々には小さな祠と石仏が置かれている。眼下に小学校の校舎や体育館が見える。やがて、湯尾峠への分岐を過ぎ、弘法寺のお堂の前に出る。

そのまま進んで、お堂の間から裏手に出ると、静かな樹間の道。時おり陽が射し始めた。鍋倉南谷の分岐を過ぎる。谷側の冬枯れの枝の間のコブシの花は、白い鳥の群れが飛んでいるような錯覚をおこさせる。

北電の鉄塔の下をくぐると、足元にイワカガミの花が現れる。

西谷の分岐から、道は急な登りになる。登り切って平坦になった尾根上を少し進むと、鍋倉山の山頂に出る。

一息いれて歩き出す。ギフチョウが飛んでいる。黒と白の縞模様の尾の部分に朱と青と黄色の模様が美しい。

いったん鞍部まで急下降し、登り返す。結構長い急な登りだ。登り切ると、道は美しいブナ林の中から藤倉山の山頂手前の開けた灌木帯の間を歩くようになる。露出した岩と灌木の平坦な尾根道を歩くと、三角点のある藤倉山の山頂である。ここからは、今庄宿全体が見渡せる。三々五々、各パーティーが登ってきて、期せずして全員が集まった。

ここからは急な下り。枯れ葉が乗った土の道は滑りやすい。空に雲が広がりはじめた。と

ころどころに、イワカガミ、二週間前には満開だったというマンサクの花の名残、立派なアカマツなどを見ながら、燧ヶ城址まで下った。ここから観音堂、新羅神社の間は、カタクリの群生地だということだが、まだ春は浅く、あちらに一輪、こちらにも一輪、程度の花しか見られなかったのは残念。新羅神社から宿場町を通る。桜の古木が花盛りの陣屋跡には屋台が出て、春の祭りの真っ最中だが、JR駅前に向かう。全員が駐車場に集まるとポツリ、ポツリ。空が泣き始めた。ラッキー！

【記録】 5：30 半田出発－8：00 JR今庄駅着 8：15 発～8：23 登山口～8：51 湯尾峠分岐～9：00 弘法寺～9：05 鍋倉南谷分岐～9：29 鍋倉西谷分岐～9：35 鍋倉山（516m）山頂 9：42 発～10：30 藤倉山（644m）山頂 10：47 発～11：37 燧ヶ城址。休憩 11：42 発～12：12 新羅神社着

（洞井孝雄）